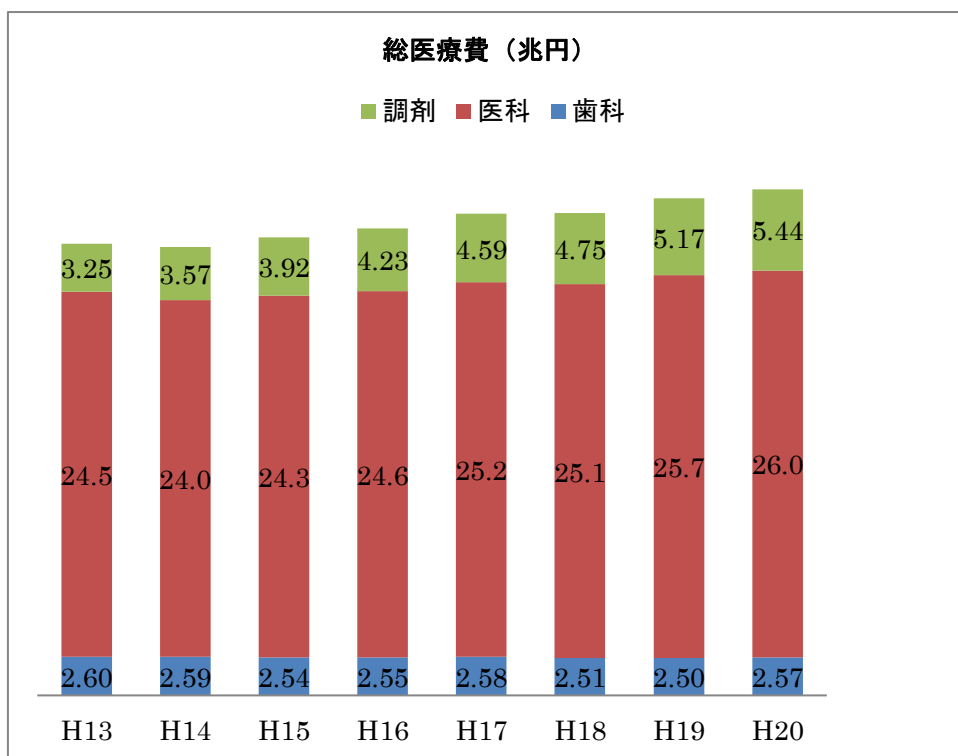


2) 医科医療費は増えているか

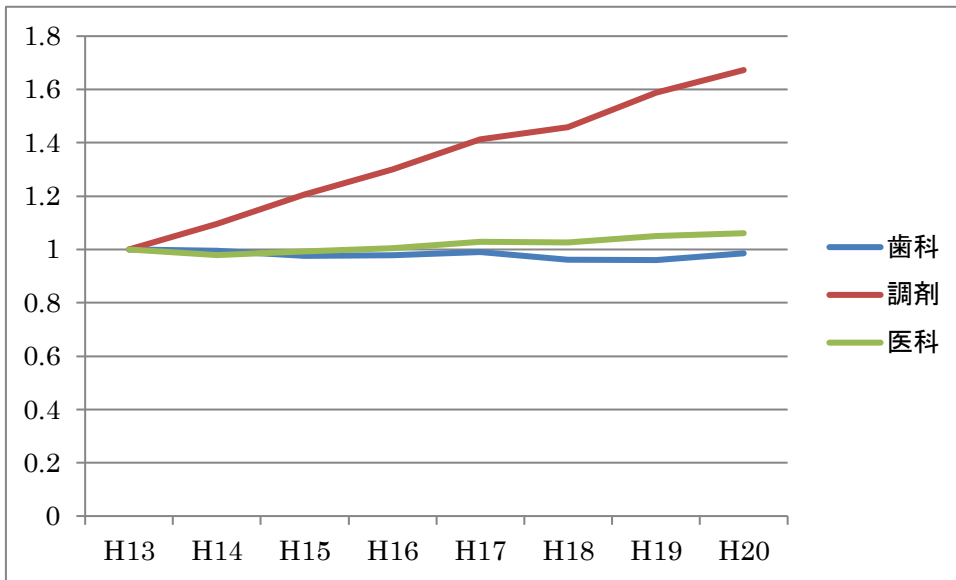
歯科保険制度を考えるとという本筋とは外れますが、歯科のことを考えるうえで、それ以外の現状を知ることとは重要です。少し脱線しますが、この項と次項で医療費全体のことを述べます。

過去十年ほど、国民医療費は、増えていて、歯科医療費は微減か横ばいであることは前項で述べました。

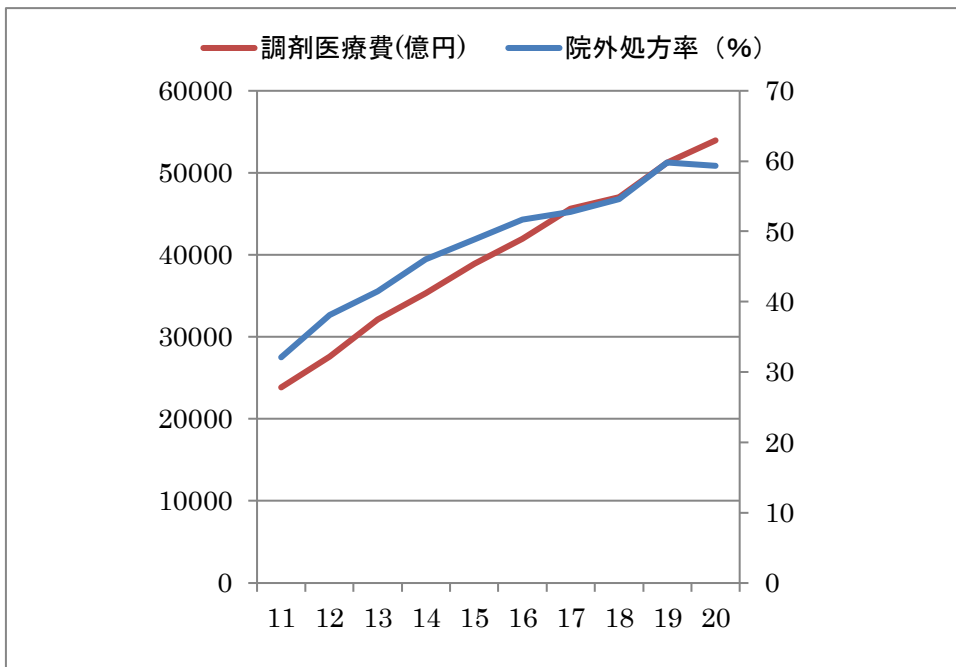
一方で、医科が増えているという増えているのは調剤だという意見があります。



実額（兆円）は、上図のようになっています。これを13年を1として、それぞれがどのくらい変化しているかをみると下図のようになります。



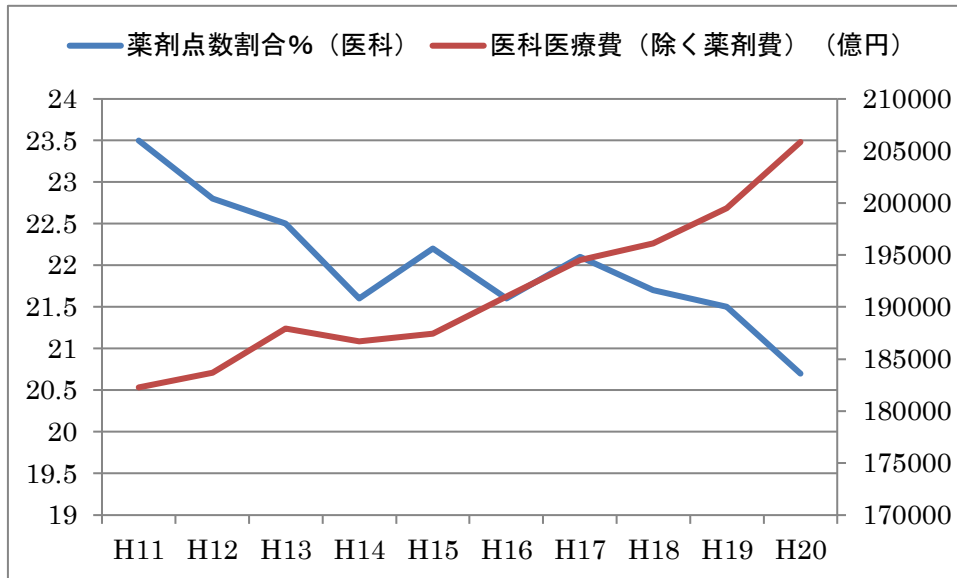
たしかに調剤医療費の伸びは大きいです。ところが、院外処方率と調剤医療費を比較すると、下図のようになります。



医療機関で処方していた分を薬局で処方するようになったので、その分が増えているだけのようにみえます。

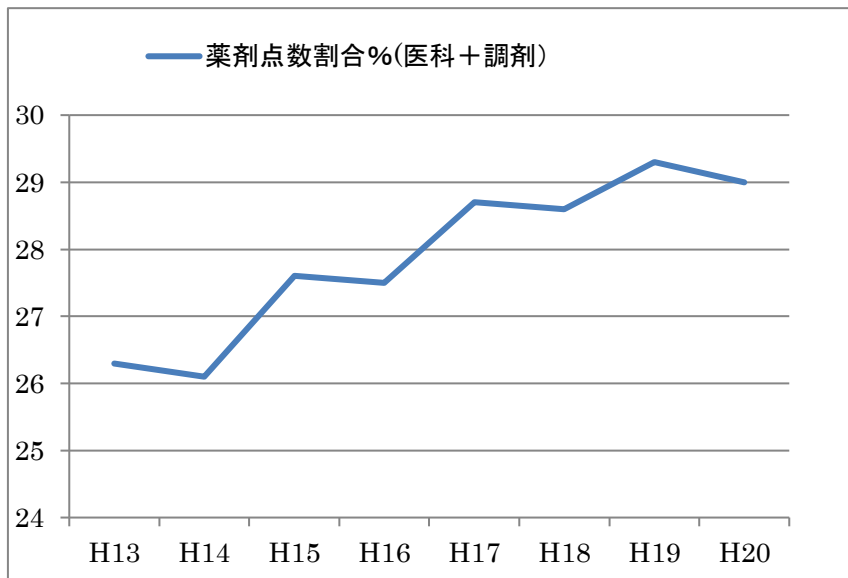
であれば、その分、医科の医療費が減るはずですが、そこで、医科の医療費の薬剤費の割合（診療行為

別頻度各年 6 月診査分) とそれを基に薬剤以外の医科医療費を推計したのが下図です。



20 年は 11 年に比べて、13%増になっています。

つまり、医科医療費は、増えているということです。



一方、薬剤が医科と調剤を合わせた医療費に対する割合も上図のように増えています。

(偶数年に下がるのは、薬価が改定で下がるからです。このことは次項で詳述します。)

要するに、医科医療費も増えているし、薬剤費はそれ以上の割合で増えているというのが実情なのです。